

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	ハート・のんびる
支援対象者・エリア	宮城県・岩手県
企画開催地	宮城県・岩手県
企画名称	<p>膝掛けを被災地の高齢者へお届けする。</p> <p>小物作りの材料を被災地へ送り現地の方が制作した小物を販売して売り上げ金を送金する。</p> <p>シャンソンミニライブ開催</p> <p>水彩画教室&落語会開催</p> <p>俳句教室開催</p>
実施期間	2018. 4～2019. 3

支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

3. 11のあと5月にパルの「僕たち、私たち出来る事からはじめよう」というトークイベントにネット応募で集まったメンバー数名から活動は始まりました。1回目の集まりで、話し合った結果15cm×15cmのモチーフを皆で編み36枚繋いでひざ掛けを作り、この冬に仮設の高齢者へお届けしようと決めました。

まず、パルに勤務している東北出身の方の紹介で、10月に編み上がったひざ掛けを宮城県福田町の公園に出来た仮設へ届けに行きました。どのように声掛けしていいのかわかりませんでした。とにかく現地のお話を伺おうと出してくれた、お茶を飲みながらお話を聞けば、みなさん家も家族も亡くされた方ばかりでした。今思えば空元気というか皆さん笑っていました。男性も女性も集会所に集まって「いのちの笛」を作っていました。

関西の大地震の後、支援活動を始めた組織が持ち込んだ手仕事で、一つ¥300売上の半分は皆さんの手間賃になるとの事、帰りに何個か買わせてもらいました。

帰りがけに、《東京へ帰ったら私たちの事なんか忘れちゃうでしょ》と言われ、そんなことないです。出来る事はささやかかもしれませんが、応援させて下さい。と言って東京に帰って来ました。

戻ってから知り合いに売り込み、「いのちの笛」を1200個販売しました。その仕事も1年ぐらいで無くなりました。そこで、裁縫道具や生地や毛糸を送って小物を作ってもらい東京で販売して売上金を送金しようという話になり、最初は10種類くらいの商品販売で始めました。活動も、宮城の気仙沼へ、岩手の田老・山田・大槌とどんどん広まりました。

そして、4～5年はあっというまに過ぎ、現地の方々の生活状況にばらつきが出てきました。そこで、シャンソンや水彩画、俳句と趣味の事を提案してみようと思ひ、知人たちに話をもちかけ、出演料なし、講師料なしで被災地に行ってイベントをすることになりました。

8年経って、現地の方々と何回もやり取りをする間に親戚みたいだねと言われるような関係になっています。嵩高された畑ではじめて採れた菜っ葉送るから食べてと箱一杯送ってくれた時は、嬉しくて涙が出ました。

それから、ジャガイモがとれたよ！気仙沼からはさんまが上がったよ！と現地の話と味を受け取っています

活動の様子（写真など）

